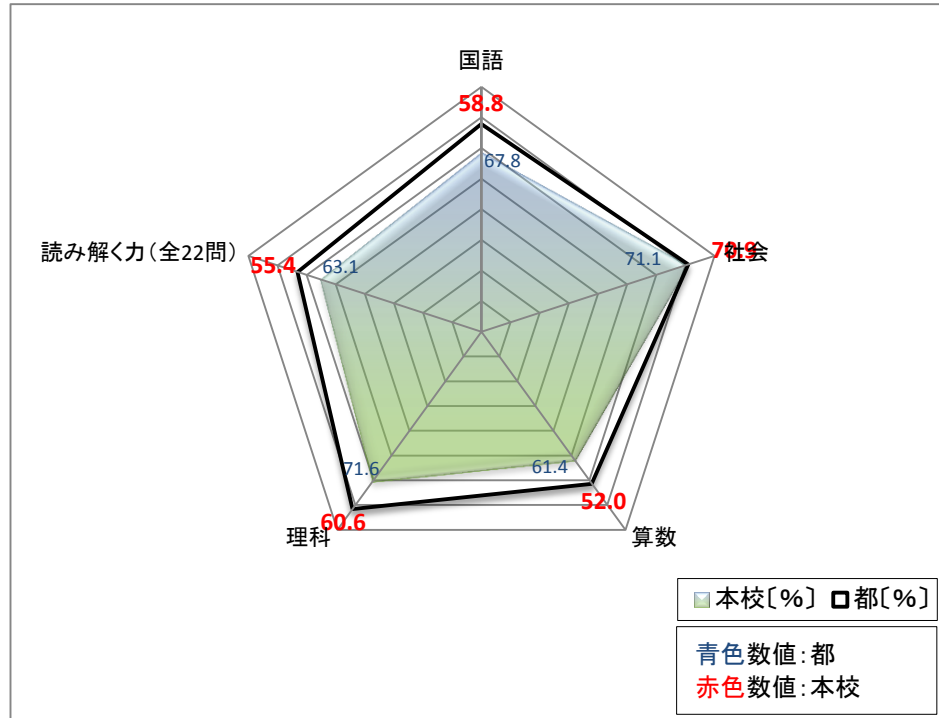


平成29年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果による「確かな学力向上推進プラン」策定のための課題分析表（小学校）  
鹿骨小学校

《学力調査結果チャート》※本校と都の平均正答率の比較



《現状把握》

- ・「関心・意欲・態度」は、全教科が90%以上で、都と同レベルだった。
- ・社会の「知識・理解」は、都を15.1ポイント上回った。
- ・課題は、10ポイント以上、都を下回った国語の「読む」「話す・聞く」、算数の「技能」、理科の「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」である。
- ・4教科全てで、複数の資料を比較・検討して解決に向けて論理的に考える力が不足している。

《授業改善のポイント》(推進プランは別紙)

- ・国語は、要約やあらすじ等、文章を自分の言葉で説明する学習を通して「長文の読解力」を付ける。また、キーワードを使うことで「要点をメモしながら聞き取る力」を付ける。
- ・算数は、東京ベーシックドリル等で既習事項を復習し、「小数」「帯分数」等の正確な計算力を付ける。
- ・理科は、「観察・実験」の結果や「考察」「まとめ」を身の回りの事象に応用し、「知識」を定着させる。
- ・児童質問紙調査で「授業が分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた児童の理科、算数の正答率が低かったので、教材の工夫により理数系の学習意欲を高める。

《チャートの特徴》

- ・社会は都と同程度である。
- ・理科は都との隔たりが11ポイントと、最も大きかった。
- ・算数は都より、9.4ポイント低かった。
- ・国語は都より、9ポイント低かった。
- ・4教科の「読み解く力」は、都より7.7ポイント低かった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・幅広い読書やコミュニケーション等、多様な言語活動の機会がもてるよう、働きかける。
- ・教科書やプリント、ドリル、実験、観察等で学んだ基礎・基本を日常生活に応用し、自発的に考えられるよう、働きかける。